

# 福祉パレット

ご近所福祉のまち 向日市をめざして

## 現代版“交換日記”で見守り活動

寺戸地区と上植野地区でスタートした「ねき寄って通信」。専用の用紙に日常の出来事などを書き込んだ回覧板を、70歳以上の数人のグループで回し、互いの安否確認を行うもので、困った時に助け合える地域づくりにつながっています。



参加者は、次のメンバー宅に自ら“回覧板”を回すルール。ご近所の“顔見知り”から“身近な存在”へと距離を縮めることが地域の絆を深める。

交換日記みたい。  
どんなコメントが書いてあるか、  
ファイルが返ってきた時に  
開くワクワク感があります。

参加者の松井みつさん(88)



# 広げよう!

## 地域の子育てネットワーク

社協では、地域における子どもの健全な育成と子育て支援を目的にベビープログラムに取り組んでいます。

今回は、ベビープログラムを通じた参加者同士のつながりづくりの体験談や、さまざまな形で子育てを支援する人たちの活動を紹介します。



### 子育て環境の変化とベビープログラムの意義 中川 千恵美先生 (大阪人間科学大学 社会福祉学科 教授) に聞きました!

ある子育て実態調査によると、“子育てに関して孤立している”と感じる人たちの数が年々増え続けています。核家族化や住民相互の関係の希薄化、晩婚化といった社会背景があるなかで、そうした不安を解消するためには、意図的に親同士が子育ての知識や経験を交流する機会を作っていく必要があります。ベビープログラムは、子育てを助け合える仲間を作り、子育てに必要な知識や方法を学ぶ絶好の機会。ぜひ活用してください。初めから一人前の親はいません。周りのサポートを受けて、親も子も育っていくのです。地域の子育て事業や支援団体との連携を強化し、必要な子育て情報の提供や場づくりの実現を目指していきましょう。

プログラム内容

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥ 子育てを助け合える仲間を作る</li> <li>♥ 子育てに必要な知識・方法を学ぶ</li> <li>♥ 親子の絆づくり</li> </ul>
実施回数	全4回 (2時間/回)
対象者	2~5か月児とその母親 (親子同伴で参加、子どもは第一子に限る)

### サークル紹介

#### オータムベビー会

一昨年の秋に生まれた子を持つ親で結成したことから、名称は「オータムベビー会」。活動は月に一度。「同じタイミングで子育ての悩みを持っている人が集まり、情報を共有できることが一番のポイント」と参加者のひとり話ります。結成2年目を迎え、社会復帰するメンバーも出てきました。それに伴い、今後は週末の時間をうまく活用して継続できるよう調整を重ねていくとのこと。メンバーの絆はより強固なものになりつつあり、それぞれの思いに互いに寄り添いながら歩みを進めています。



#### メリーズ

講座で第一子の子育ての悩みを共有したメンバーが、「このまま解散するのは名残惜しい」と結成したサークルです。「初めての子育てで不安や悩みを抱えているのは、自分ひとりじゃないと知り、気持ちが楽になった」とは、メンバーの声。また、引っ越しを機に向日市に住むことになったメンバーにとっては貴重な友人づくりの場にもなっており、「参加することがすごく楽しみ」と話します。「のんびり、ゆっくり、長く」が活動モットー。気兼ねなくいつでも参加できる居場所づくりを続けていく予定です。



### 地域の支援団体や専門家も あなたの子育てを サポートします。



子育て支援団体

NPO法人子育て支援ねこぼす  
理事長 高山 紀公子さん

「時間内なら自由に訪問できる『つどいのひろば』を開設。同じ悩みを持つ子育て中の他の参加者らと交流することで、孤立を防ぐ居場所づくりにつなげたいと思っています。また、子どもの発達や産前産後の不安、入園情報の提供など、身近な相談窓口として気軽に利用できる『こねくとすくすく』事業も展開しています」



主任児童委員

向日市民生児童委員連絡協議会  
主任児童委員 風谷 千賀子さん

「子どもたちは『まちの財産』です。私たち主任児童委員は、地域で見守り活動を行い、必要に応じて専門機関につなぐ役割を担っています。子どもたちを理解し、また彼らにとって気軽に話せる存在であるために、普段から積極的に地域行事や学校行事に参加するなどして交流を深めています」

介護の豆知識



### ホームヘルパー はじめませんか?

社会の高齢化に伴い、介護に対するニーズが多様化しています。そこで、介護の担い手として期待されているのが、ホームヘルパー。ケアマネジャーが立てたケアプランに沿って、身体面ではおむつ交換や入浴介助、生活面では日々の掃除や食事、買い物代行などを行います。

こうした介護サービスのなかでも、とくに重要とされるのが「食」のサポート。「食べるという意欲が、生きる意欲につながる」からです。それを心に留め、ヘルパーは限られた時間と食材のなかで、利用者の好みに合わせた栄養バランスの良い料理を作ります。



そこには、時間短縮のために食材に火が通りやすい切り方をしたり、電子レンジで下ごしらえをしたり、食べやすいようにあんかけにしたりと、さまざまな工夫があるヘルパーは、「一人ひとりと向き合う支援だからこそ、利用者さんが笑顔を見せてくれる。やりがいある仕事です」と話してくれました。

介護業界の職種のなかでも、育児や家事をしながら仕事をする女性が多いヘルパーの世界。

みなさんも一緒に働きませんか?

お問い合わせはこちら↓

☎075-932-1968

(向日市社協ホームヘルプセンター)

# — information — 向日市社会福祉協議会からのお知らせ

## 「ふれあいサロン」をはじめませんか？

「ふれあいサロン」は、公民館や集会所を拠点として茶話会やレクリエーション、小物作り等を行う活動です。

向日市社協では、住民の社会参加や相互交流を目的に「ふれあいサロン」の設置を推進し、取り組む地域や世話人を募集しています。

運営や広報、内容に関する相談も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】

地域福祉課 TEL.932-1961



## 貸出備品のご案内

向日市社協では、下記の備品の貸出を行っています。

いずれも貸出期間は1週間以内、費用は無料です。

【お問い合わせ】

地域福祉課 TEL.932-1961

### ●車椅子(自走式・介助式)

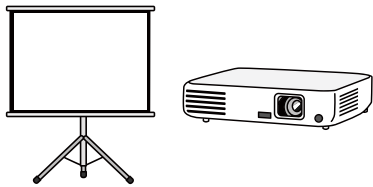
向日市在住で通院や旅行、事故等により一時的に必要としている方に貸し出します。



### ●レクリエーション備品、会議備品

自治会や子ども会、サロン活動等向日市に拠点を置き、主に市内で活動している団体・機関に貸し出します。

(例：プロジェクター、スクリーン、輪投げセット等)



※本会のホームページに貸出備品の一覧を掲載しています。

(<http://www.muko-shakyo.or.jp/>)

## 「福祉とボランティア」出前教室

障がいやボランティア活動に対する関心をひろめ、理解を深めることを目的にボランティアセンター登録者や障がい当事者の方々が講師となり、市内の小・中学校などで、出前教室を行います。

「福祉とボランティア」出前教室のお申込みは年間通じて受付しています。(開催予定日の1か月前までにお申し込みください。)

【お問い合わせ】

向日市社会福祉協議会ボランティアセンター  
TEL.932-1961 FAX.933-4425



## ボランティアセンターに登録しませんか？

平成28年度ボランティアセンター登録者を募集しています。

ボランティアセンターではボランティア活動を行いたい人と、ボランティアの手助けがほしい方との調整や、すでにボランティア活動を行っている団体の活動支援及び相談業務を行っています。

「ボランティア」活動を始めてみたいけれど、どこに相談したらよいかわからない方、新たな活動場所をお探しの方、お気軽にお問い合わせください。



## 善意のご寄付 ありがとう ございました



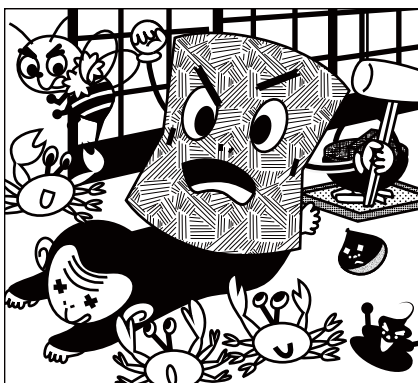
(平成27年9月1日～平成28年2月5日)

東向日キリスト教会 様	5,000円
吉井 孝一 様	50,000円
八木 嘉明 様	100,000円
医療法人回生会 様	40,000円
医療法人真生会 様	40,000円
畠中 希歩 沙恵子 様	5,748円
近畿歌謡合同研究会 様	38,894円
京都新聞乙訓販売所連合会 様	20,000円
匿名(1名)	100,000円

## 7つのまちがい探し

### 「さるかに合戦」

カニをだました猿を、カニの子どもたちとウス・クリ・ハチ・馬の糞が助けて敵を討つ民話。全国各地に伝承があり、少しずつ登場するキャラクターやストーリーが変わっている。



### \*応募方法

はがき又はFAXに、①回答②氏名③住所④年齢⑤今回で特に関心があった記事(複数回答可)⑥「福祉パレット」を読まれた感想を書いてお送りください。正解者の中から抽選で5名に図書カードをプレゼントします。

\*締め切り 平成28年4月22日(金)まで必着

\*送り先 〒617-0002

向日市寺戸町西野辺1-7  
向日市福祉会館内 総務課  
FAX.933-4425

平成27年10月号の答え「人魚姫」 ①船の位置②雲の数③王冠の形④人魚姫の髪飾り⑤人魚姫の尾びれの形⑥海岸の貝殻とヒトデ⑦王子のボタンの数